

## ローカル変数の可視範囲を広げる設定 (ルネサスC版)

Rev 1. 02 2010/03/10

### 【対象】

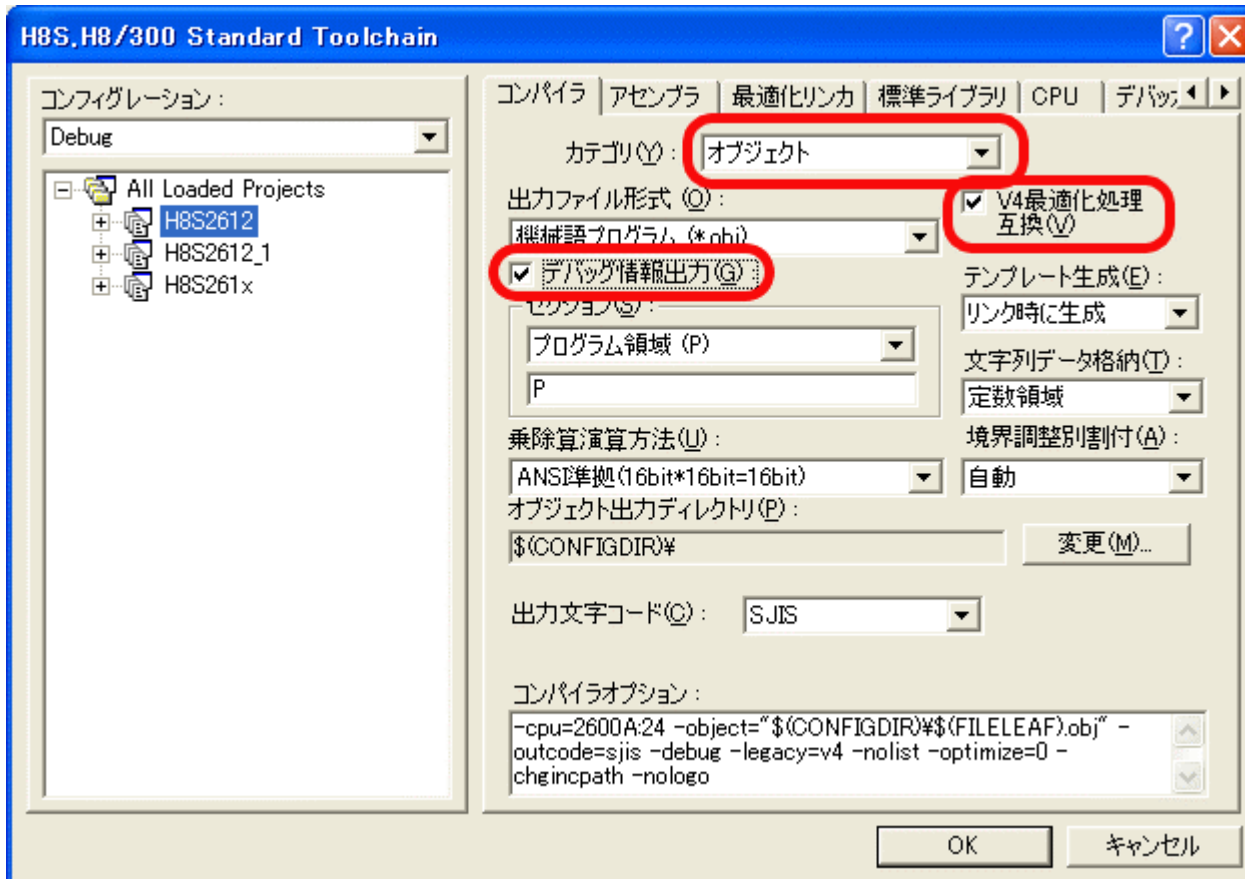
ルネサスC (H8C-ELF/Dwarf2) でコンパイル/リンクした H8S 品種が対象になります。(H8SX 品種は除く)

H8S,H8/300 Tool Chain(Ver6.2.0.0) ・ C/C++ Compiler(Ver6.02.00) ・ Assmebler(Ver6.02.00) ・ Optimizing Linkage Editor(Ver9.03.00)

### 【概要】

関数内で使用済みになったローカル変数でも内容を出来る限り参照できるようにする設定の説明です。

### 【設定】 <ビルド>-<H8S, H8/300H Standard Toolchain...>

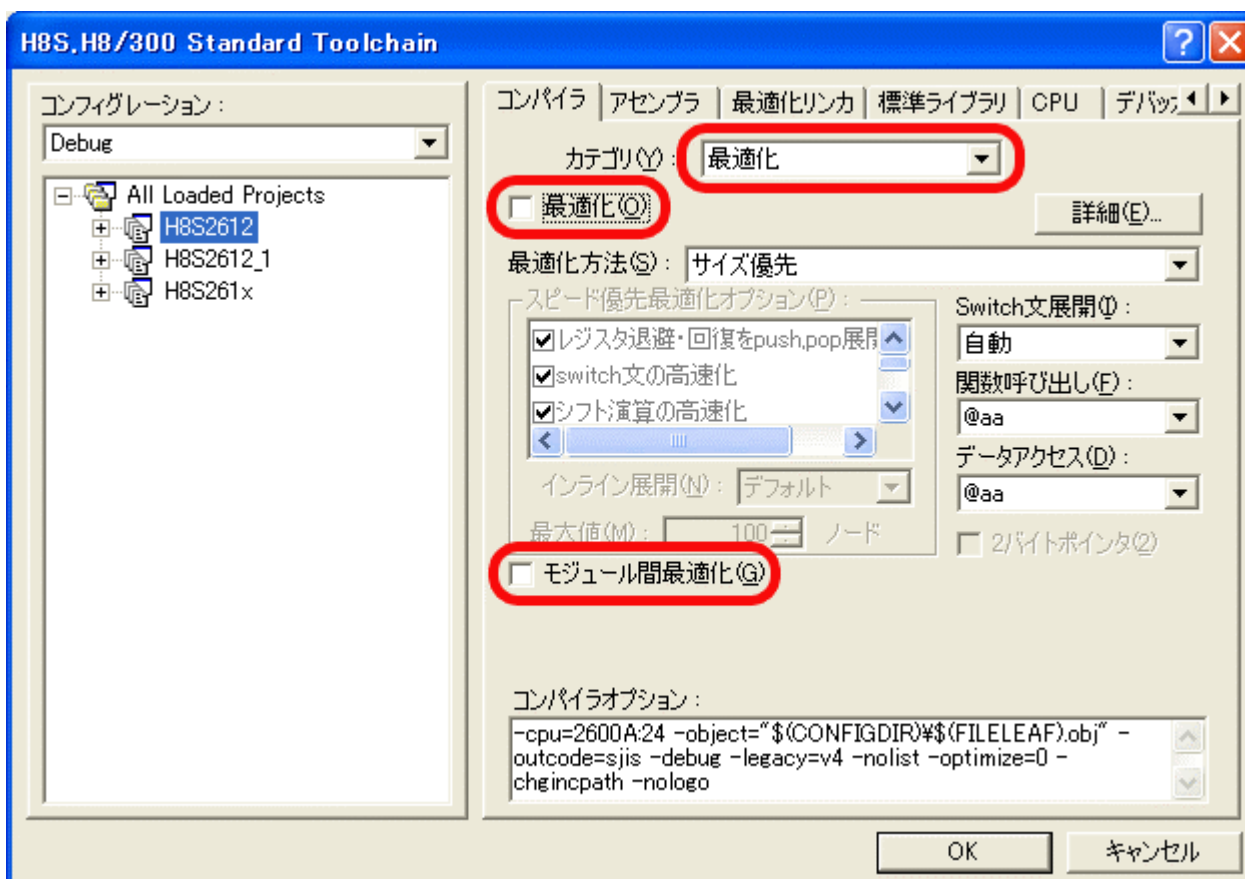


①カテゴリ「オブジェクト」を選択



②「V4 最適化処理互換」をチェックします。この設定によりローカル変数の可視範囲が広がります。

③「デバッグ情報出力」にチェック 従来通り



<確認>

①カテゴリ「最適化」を選択

②「最適化」のチェックが外れていることを確認します。

③「モジュール間最適化」のチェックが外れていることを確認します。

以上